



ともに

～地域と育てる学び舎 安来分教室～

安来市にある県立学校の一つ「松江養護学校安来分教室」。農作業や加工品製造、販売会の開催などといったこの学校の実践的な授業は、分教室の中だけでは完結しません。地域に出て人々と関わりながら学びを育むことで授業の形を完成させます。

市内の他の県立学校よりも歴史は浅い安来分教室。しかし、そこには地域との深い結びつきがありました。

写真：農作業で収穫したイモを運ぶ生徒。



成長と共に

つながる心

地域とつながる授業

今年度で開設12年目を迎える松江養護学校安来分教室（以下、分教室）。この学校には、これまで大切にしてきたことがあります。それは「地域」との関わり。

学校の活動に、地域の人たちに関わってもらうことで、学校外の人とのコミュニケーションの取り方や人と接することそのものを学べるようにしています。

また、自分が生まれ育ち、今後も暮らしていく安来を知り、地域とつながっていきけるよう

授業を行っています。

外部の人から得られる学び

分教室の学習には、農作業があります。学校の畑などを使って種まきから収穫までの作業をします。

夏場は暑さと戦いながらの手入れとなるので骨の折れる作業。それでも収穫の喜びを味わえる農作業は学校が大切にしている授業の一つです。

農作業でも地域と関わりをもつため、分教室では地元農家と連携した学習も取り入れています。「毎年、生徒が来るのを楽

しみにしてますよ」と話すのは、西村眞知子さん（宇賀荘町）。自身が管理する畑で農業体験を受け入れています。分教室が開校したばかりの頃、自ら学校に声をかけて生徒に来てもらうようになったと言います。「学校の外の人と関わる機会を持つことは、生徒がこれから成長していく上で必要なこと。また、分教室に地域の人が関わることで、その人たちが持つ知識や経験などから、生徒の皆さんは多くの学びを得られると思います」と力を込めます。

そして、無農薬で野菜などを育てている西村さんは、農業を通じて「食」の大切さも伝えていきたいと笑顔を見せます。

社会に出てから役立つことを

約10年前からパン製造の指導で分教室に通う人がいます。非常勤講師の田中幸雄さん（切川町）。元々パンを製造・販売する仕事をしてきた田中さんは、知人の紹介で分教室に指導に来るようになりました。

「私はパンについての詳しい話はあまりしません。それよりも仕事の大変さや辛い中にも多くの喜びがあるということを生徒に教えます」と自身の役割を口にします。



レタスの種まき



サツマイモの収穫



西村眞知子さん



◀校門付近にある実習棟。加工品の製造などを行います。

松江養護学校安来分教室

知的障がいがある生徒の学びの場として平成21年に開設されました。

これまで、地域産業と連携した学習を展開。企業や農家などでの職場実習や地元イベントへ参加し、地域と一体となって障がいのある生徒が社会に出て活躍できるよう、成長を支えてきました。

佐久保町。現在、生徒数15人。



自分が経験してきたことを話すことで、生徒が社会に出たときに少しでも役に立つようにと考えています。

「パン生地をこねる作業は力がいり、一人するには大変です。必要なときは誰かの手を借りることや周りを見て人の手伝いをしてあげなさいという話をします」と続けます。

そして、「パンはどの世代の人も買いに来ます。なので、パンの販売は地域の幅広い年代の



田中幸雄さん

人と接する機会をもてるんです。生徒たちにはこうした場を大切にして、地域や社会とつながっていきけるようになってほしいです」と思いを込めます。

同じ学び舎で 同世代の友と

自分を知り、これから生かす

彩り鮮やかな野菜や果物が運ばれる実習棟。収穫した作物は、ここでジャムや焼き菓子などに加工して販売します。生徒が手作りする製品を自ら販売することも大切な学びです。

昨年までは、観光交流プラザでの定期的な販売会や学校で行う地域参観日などで出店を行ってきました。今年度も出店を考えていましたが、思わぬ壁が現れます。新型コロナウイルス感

染症による自粛で、予定していた対面の販売会はしばらく中止になりました。

販売会では接客の心得を学びます。その結果、「作物を育てること」「加工して製品を作ること」「販売すること」という、ものづくりから販売までを経験することができま。これにより、将来の職業選択や自分に何が向いているのかを知ることができます。

経験からの学びで力をつけ、

安来分教室 YBKグッズ



なしジャム



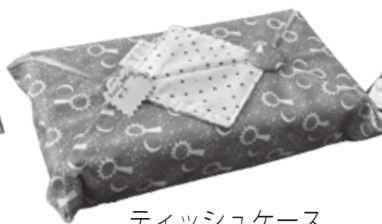
さつまいもジャム



ふきん



ヘアゴム



ティッシュケース



マグネット

また、自分の力を知ること、社会に出る準備をします。

道は違えど、将来に向けて

今年度初めて対面での販売を行ったのは、安来高校（以下、安高）の体育祭のとき。会場となるテントにはビニールカーテンをつけ、スタッフはマスクとフェイスシールドを着用して行いました。久しぶりの対面販売で生徒は緊張気味。それでも、接客していくうちに少しずつ慣

れ、元氣よく「いらっしやいませ」と声を出したり、手際よくレジを打ったりしました。

安高で行う販売会は、同世代の仲間と日頃の活動の成果を発揮する場でもあります。プレッシャーになる面もありますが、共に成長していることを見ても、行うことができます。

分教室と安高。学習の仕方は違いますが、生徒たちは同じように、将来のための「力」を蓄えています。



③



②



①



⑤



④

①②手芸などを行う「エコ・パッケージ班」の授業。先生にアドバイスをもらいながら仕上げます。③実習棟でのジャムづくり。大きな鍋やミキサーを使ってニンジンやサツマイモなどをジャムにします。④実習棟は自分たちで清掃。⑤体育祭の綱引き。安高生からの声援を受けて一生懸命引きました。⑥⑦体育祭での販売会は、行列ができるほどの人気ぶり。落ち着いて接客するよう心がけました。⑧毎年ロードレースにも参加します。男子は17キロ、女子は12キロを走りました。⑨体育祭でのリレー。生徒が一丸となってバトンをつなぎました。



⑦



⑥



⑨



⑧

インタビュー



安来高校
柳楽眞悟校長

これからもお互いの学校の生徒に良い刺激となる関係を築いていければと考えています。

実際に、体育祭やロードレースなどを一緒に行うとき、生徒たちは共に学ぶ仲間として垣根なく接しています。また、分教室さんに関わることで、生徒は、「共生社会で生きる」という視点など、幅広い考えを持つことができるようになっていけるようにしています。

「同世代の仲間と一つ屋根の下で一緒に成長できる」。これが分教室さんと活動して私が感じることです。うちの生徒は入学してすぐに分教室の先生から、どのような生徒さんがいるかや活動内容などの話を聞かせてもらっています。分教室さんの取り組みへの理解を深めてから、実際に関わって

まちで輝くこと それが恩返しに

学校外での活動に感謝

太陽の日差しが強くなり始めた6月。16日に1〜3年生の5人が社日交流センターに集まりました。この日の授業は、花壇にマリーゴールドを植える作業。地域の施設に貢献する活動も分教室が大切に行っている授業の一つです。

生徒たちは、植える前の準備として花壇の石を拾っていきま



▲生徒と植え付けを手伝う野坂館長。

ん引。「ここで作業をさせてもらえることに感謝して、きれいな花壇を作りたい」と土を整える手に力を入れます。

石を取り除く作業が終わると土を耕し、苗を均等な間隔で植えていきます。最後に水やりをして出来映えを確認。約2時間の作業を終えました。

「交流センターの人たちが喜んでくれたので良かったです。後輩もがんばってくださいました」と田中さんには笑みが。生徒たちは、感謝を忘れず、まちに貢献する活動に汗を流します。

周りの人たちの声を力に

6月24日には、同センターで窓掃除。2年生3人が取り組みました。窓掃除の仕方や道具の使い方は、1年生の時に学習します。

「水滴が残らないようにしっかりと水切りをすることを意識しています。作業中は近所の人に声をかけてもらうこともあるのでうれしいです」と口を揃える3人。地域の人からの声が届く

▶クワを使って土を耕す生徒。根付きを良くするため石は取り除きます。▼みんなで協力して約100本のマリーゴールドを植えました。見栄えを考えて、背の高いものは奥側に低いものは手前に。





②



①

①楽しそうに作業をする3年生と2年生。学年問わず仲の良い生徒たち。②作業場所が近いときは歩いて向かいます。作業に必要な道具などは自分たちで運びます。③高い所は長さのある掃除道具を使い、汚れを落として水切りをします。④窓の隅々まで丁寧に掃除をしていきます。



④



③

地域に愛着をもって このまちで活躍してほしい

学校の外での活動は、地域の人に見てもらえる場です。生徒たちのがんばりを多くの方に知ってもらって、理解してもらうためにも地域に貢献する授業は、学校として大切にしています。周りの人に評価してもらえることは、本人にとって励みになり、自信にもつながります。また、生徒たちはこれから地域と関係を築いて生きていくことになります。社会に出て何年かしたときに自分たちが活動した場所を見て「あの時、ここで活動をさせてもらったな」と思い出してもらい、地域に愛着をもってもらいたいです。



安来分教室
木次雄作教諭

そして、社会に出て輝く姿を見てもらうことが、お世話になった方たちへの一番の恩返しになると考えています。

地域を元気づける
社日交流センターでは、これまでも職場体験学習で生徒を受け入れてきました。
野坂悦由館長は、「交流センターが関わることで、生徒たちと地域の人とを結ぶ架け橋がで

なっています。
また、校外での作業学習は、基本的に教員の指示はありません。生徒は、自分で考えて行動する力を身につけています。

きる。社会勉強にもなっていると思いますよ」と交流センターが関わっていくことの意味を話します。
さらに、「センターの前の道は、地元の人や小学生などがよく通るので、きれいに整備してもらおうと皆さんに喜んでもらえる。地域を元気づけるきっかけの一つにもなっています」。
分教室の生徒たちは、花だけでなく、地域に笑顔を咲かせています。



多くの人に届けたい 分教室の思い

地域に出て、さまざまな人と関わり、また、貢献する活動に取り組む分教室。開設から持ち続ける「生徒を育てる上で大切にしている思い」とはどのようなものでしょうか。

地元の資源で挑戦

山の木々が色づき始める初秋。分教室の生徒たちは、「島根県知的障がい特別支援学校高等部フードデザインコンテストプレ大会」に向けて準備を始めました。

12月8日に出雲養護学校で開催されるこの大会は、県内の特別支援学校高等部の生徒たちが

島根の資源を活用したレシピづくりを行いその成果をプレゼン。優劣をつける大会ではありませんが、審査員や他校の生徒の前で発表します。

分教室の生徒は、地域の酒や野菜などを使ったお菓子作りを検討。地域の資源を活用した分教室の挑戦に注目です。

思いは生徒の成長に

フードデザインコンテストの目的は、課題解決学習に取り組むことで、「主体的、対話的で深い学び」を進めることです。仲間と試作などを通して地域資源の課題を探し、主体的に行動する力を身につけます。

「地域のものを知ること」「仲間と対話を重ねて協力すること」「自ら進んで行動すること」と。「これらは、今後、生徒が地域で働き、生きていく上で必要なことです。分教室の生徒は、社会で活躍できるように、さらに腕を磨きます。

さまざまな学びの方法で生徒を育む分教室。『自立をめざし「生きる力」を培い豊かな人間性を育む』という学校の思いは、きっと地域の人々にも届くはず。そして、受け止めた皆さんの思いが、生徒の成長につながっていきます。

安来分教室は、「地元の子を地元で学ばせよう」との思いから開設された学校です。

安来の皆さんは学校に協力してくださる方が多くて大変助かっています。私たちは、生徒が地域の人々、企業、同世代の仲間と接していくことで、「コミュニケーション能力」や「実際に経験したことからの学び」を育み、自立できるような学習を進めています。

障がい者の自立には、周りの人が何でも支援をする必要があると思われがちですが、それは違います。必要な支えだけで良いのです。障がいがあってもできることは自分でできます。本校の生徒には、「自分にもできる」という自信をつけられるようにしています。また、支えてもらった分、人の手伝いもするよう教えています。

誰もが意識すれば、障がいのある人もない人も共に手を差し伸べ合いながら、育つことのできる環境をつくっていけると考えています。

支え合って
暮らせる社会に



松江養護学校
道下利治 校長



分教室から地域の皆さんへ

手作りの販売品を置かせてもらえる場所はありませんか

会社・施設のオフィスや受付など、販売品を置かせてもらえる場所がありましたら、ご協力をお願いします。

問い合わせ 安来分教室 ☎22-2680

▶お弁当用のバッグ。



◀清掃をする生徒。

生徒が活動させてもらえる場所はありませんか

清掃活動や職場体験など、生徒が活動できる企業や施設などを探しています。ご協力いただける場合は分教室までご連絡ください。

日程や期間などは別途、相談させていただきます。

これからも
地域とつながりながら



安来分教室
いけもと
生本美幸 分教室長

年度当初は新型コロナウイルスの影響があり、昨年度までのような授業ができませんでした。しかし、感染対策をしながら、また、地域の方に支えてもらい、少しずつこの学校が目指すべき学習ができるようになってきました。こうしたことができたのは、開校してから地道なつながりを受けさせてもらったからだと考えています。

学校の外で活動するといろいろな方に生徒の姿を見られます。清掃活動や販売会で「がんばってるね」「ありがとう」などと声をかけられると、生徒たちは本当にうれしそうな表情をします。今、学校で取り組んでいる、地域と関わる・貢献する活動は、間違いなく彼（女）らが自立するための力になり、周りの人と良い人間関係を築くことにつながります。

生徒のがんばりを多くの方に知っていただき、これからも「地域とともに生きる」生徒を育てていけるようにしていきたいです。